

～ 1月・2月の主催事業から ～

寒さにまげず積極的に主催事業に取り組みました。1月は「東金学寮Ⅳのぞみ」、「芝山の古墳を訪れよう」「東青・少年サッカー大会」、共催で印旛郡市子ども会ジュニアリーダー研修の4事業、2月は「太巻き寿司作りⅡ」、「東青・少年少女ミニバスケットボール大会」「星空観察Ⅱ」、「自然体験活動リーダー養成研修・後期」、「おもてなしカレッジ②」、「教員フォローアップ研修」、「小学生のための合唱講座」の7事業です。3月は「石窯料理のつどいⅢ」、「東青・春のフェスティバル」、「小学生のための合唱講座②」の他、新規の「青年ふれあいのつどい」、「東青バンドフェスティバル」を行います。



東青・少年サッカー大会 1月24,25日  
24チーム参加、4会場で実施

小学生のための合唱講座 ①  
山武市立南郷小で

東青・少年少女ミニバスケットボール大会  
2月14,15日 3会場で実施 36チーム参加



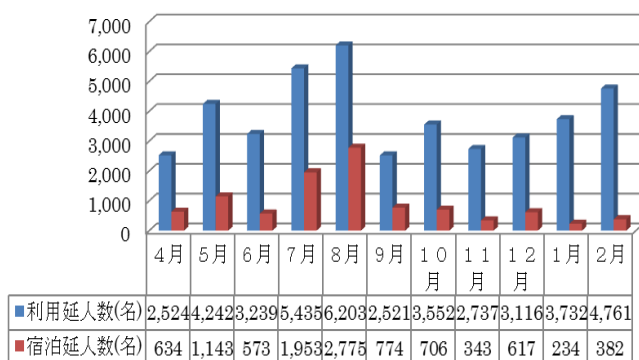
星空観察Ⅱ 2月14,15日

大型反射望遠鏡など3種類の望遠鏡でラブジョイ彗星などを観察

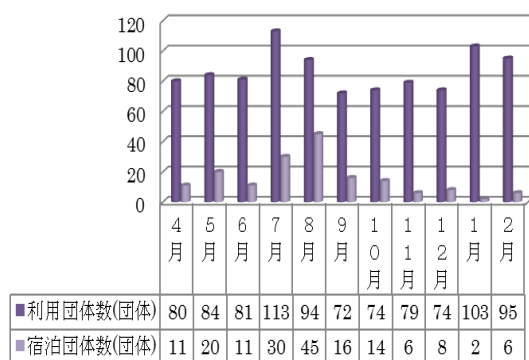
施設の利用状況

26年4月から27年2月の利用状況です。2月までの延べ利用人数は42,062名で前年度3月迄の42,456名に迫っており、今年度目標の44,000名達成の見込みです。宿泊人数は10,134名で、前年度累計の10,627名を超えるものと思っております。

利用人数



利用団体数



# かがやけ東青

2015(平成27)年 3月号  
県立東金青年の家

## 通学合宿特集!

東金青年の家では、主催事業で通学合宿「東金学寮」に取り組んでいます。1993(平成5)年6月から始まり、22年続いています。当初は年2回でしたが、2009(平成21)年から年3回、2011(平成24)年から年4回を基本としています。合宿日数は、1993(平成5)年～1999(平成11)年は8泊9日、続く2年間は7泊8日と長く、以後、6泊、5泊と次第に短くなり、2011(平成23)年からは4泊5日を基本に学校の行事等により3泊4日の場合もあります。小学生と中学生が合同で行ったこともありますが、現在は小学4年生から6年生を対象としています。

通学合宿は、子どもたちが親元から離れて、団体生活の中で日常生活の基本を自分自身で行いながら通学し、子どもたちの社会性、自主性、協調性を伸ばし、「生きる力」を育むことを期待しているものです。それには施設の職員だけでなく、ボランティアや地域の方々のご支援、ご協力を得て行うことが望ましいあり方だと言われています。従って、通学合宿は第一次生活圏=小学校地域で行うのが望ましく、多くは公民館を拠点に行われています。東金青年の家のような広域教育施設での通学合宿は珍しいといえましょう。東金青年の家でも、一時期、地域の方々のご協力を得たこともありましたが、時代の流れの中で地域との連携が難しくなっており、最近では、職員と大学生ボランティアの協力により通学合宿を進めています。

その中で、留意していることは、青年の家の特質を十分活用し、協力・協調性に向けた体験活動を行うこと。更に、「友だちの大切さと命の尊さ」を掲げていることです。これは「東金学寮」の大きな特徴です。

通学は青年の家のマイクロバスで行い、30分以内で通学できる大網白里市、東金市、山武市の小学校を計画的に順次対象としています。定員は4年から5年生の有志30名を基本としています。生徒数の多い学校の場合は、60名、90名の時もあります。この場合はチャーターしたバスで登下校します。風邪の流行時期にはキャンセルも多くあり今までに最も少ない人数は4名でした。これはこれで良いもので、家庭的雰囲気のみちた通学合宿でした。人数的には20名程度が、充実した通学合宿になっています。

アンケートでは、「また参加したい」という声が多く、2年前からは、参加したいという子どもだけのリピーター通学合宿も始めました。通学合宿を通して、子どもたちの自主性、協力性の態度は確実に向上しています。リピーター通学合宿でよくわかります。ご家庭からも「子どもが身のまわりのことを自分でやるようになった」等の声もあります。

今年度からは、試験的に中学生、高校生の部活動の生徒を対象とした通学合宿に取り組みました。本来の通学合宿とは異なる点もありますが、日常生活の基本行動の一層の向上、社会性をより高めることを念頭にプログラムを組み立て、継続事業に育てたいものと思っております。

今までに、1校だけ、複数校の生徒、4名から90名、女子だけ、2泊から8泊と様々なパターンで通学合宿を行ってきました。その回数は52回を数えています。これまでの内容を検証し、広域社会教育施設の特性を活かして、より良い通学合宿に向けて努力したいと思っています。(所長 馬場孝之)

